

平成 12 年度厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

WHO 国際障害分類第 2 版の信頼性・妥当性・ 実用性に関する研究

主任研究者 上田 敏

（財）日本障害者リハビリテーション協会 副会長

目次

I. 「WHO 国際障害分類第 2 版の信頼性・妥当性・実用性に関する研究」 総括研究報告書

II. 資料

資料 1：班会議資料

1-1 第 1 回班会議（平成 12 年 5 月 22 日）資料

1-2 第 2 回班会議（平成 12 年 8 月 18 日）資料

1-3 第 3 回班会議（平成 12 年 11 月 29 日）資料

資料 2：ICIDH-2：WHO 国際障害分類第 2 版「生活機能と障害の国際分類」
ベータ 2 案完全版 日本語訳（決定版）

I. 「WHO 国際障害分類第 2 版の信頼性・妥当性・実用性
に関する研究」総括研究報告書

WHO 国際障害分類第 2 版の信頼性・妥当性・実用性に関する研究

主任研究者 上田 敏 （財）日本障害者リハビリテーション協会副会長

研究要旨

WHO 国際障害分類改定に日本の障害専門分野の研究者・関係者の意見を反映させることを究極の目的とし次の研究を行った。1) 英語学者による逆翻訳による主要な訳語の語学的検討および広い範囲の研究者・専門職・障害当事者等の意見聴取にもとづきベータ 2 案日本語訳を完成した。2) WHO 作製の標準ケースサマリー、現実のケース、ケース記録（カルテ）等についての複数の評価者によるコーディングによる信頼性の検討、標準的な評価との同時実施による妥当性の検討、介入（リハビリテーション）前後の変化をどれだけ鋭敏に捉え得るかの検討による実用性の研究を行い、本分類が高い信頼性・妥当性・実用性を有することを確認した。3) 多数の医療・福祉の専門家および障害当事者について国際障害分類とその改定の方角についての認識度調査を行い、比較的高い関心度と改定の方角についての賛同を確認することができた。

分担研究者

- ・大川弥生（国立長寿医療研究センター 老人ケア研究部 部長）
- ・大橋謙策（日本社会福祉学会 会長）
- ・佐藤久夫（日本社会事業大学 教授）
- ・丹羽真一（日本精神科診断学会 会長）
- ・山崎晃資（（社）日本児童青年精神医学会 理事長）

A. 研究目的

我々は先に平成 11 年度厚生科学研究費補助金特別研究事業として「WHO 国際障害分類改定に関する研究」を行い、改定作業が進行中の WHO 国際障害分類改定に日本の障害関連専門分野の研究者の意見を反映させることを究極の目的とし、当面ベータ 2 案の日本語訳の完成（研究 1）、名称、基本概念、基本用語、等の基本問題に関する国内の意見の取

りまとめ（研究 2）を目的として、64 の各種学会、3 か所の国立研究所に協力を依頼し、研究 1 については 69 名、研究 2 については 61 名の専門家の協力を得た。それらの意見を研究班内で慎重審議した結果、研究 1 についてはいくつかの基本用語を含む修正を行ない、暫定的な日本語訳を確定した。また研究 2 については結果をとりまとめ WHO に意見を付して報告した。これにより、今後のフィールドトライアル・モニタリングおよび本分類の普及のための出発点が確立される等の成果をあげることができた。

本年度は昨年度の業績を更に発展させて、まずベータ 2 案の日本語につき障害者自身を含む広い範囲の関係者の意見を聞き、また英語学者の協力を得て逆翻訳による検討を行い、日本語訳の最終的な確定を目的とした。

ついで「WHO 国際障害分類第 2 版」

(ICIDH-2) の日本語版についてその信頼性・妥当性・実用性を検討することを目的とした。すなわち、ICIDH-2 の諸概念および分類項目の信頼性 (再現性)、妥当性 (内的整合性、既存の各種評価法との一致性、等) につき研究し、あわせて各種障害について適用上の問題点を事例に則して研究する。これらを通じて、ICIDH-2 が身体障害者、知的障害者および精神障害者に関する疫学的研究の手段として、臨床的手段として、また障害者施策の上でどのように役立つかを検討することを目的とした。

このような研究の必要性は次のような事情からみれば明らかである。すなわち WHO は、1999 年 8 月から 2000 年 11 月まで ICIDH-2 のベータ 2 案のフィールドトライアルを全世界規模でおこなっており、2000 年 11 月の第 8 回改正会議をへて 2001 年 5 月の総会において ICIDH-2 を正式決定する予定となっている。これらの会議において、国際的責務を果たすためには、ICIDH-2 の信頼性・妥当性・実用性を十分に検討し、その知見に基づき日本として適切な意見を述べる必要がある。また 2001 年 5 月の正式決定後にも、その普及をはかるとともに ICIDH-2 が障害分野の疫学研究等の有効な手段となるよう一層の研究をおこなう必要がある。

このような研究による期待される成果としては大きく分けて次の 2 点をあげることができる。

1) ICIDH-2 日本語版の完成

信頼性・妥当性・実用性の研究にもとづいた ICIDH-2 日本語版を完成することにより、疫学的研究の有効な手段として、またその他多面的な目的に役立つ障害分類が確立されること。

2) 共通言語としての ICIDH-2 の確立

ICIDH-2 によって障害分野における「共通言語」が確立され、一般社会と障害

者、専門家と障害者、異なる種類の障害者同士の間でのコミュニケーションと相互理解が改善され障害者に対する社会的理解の促進に役立つこと。

なお今後の普及のためには WHO 国際障害分類に関する利用者 (ユーザー) 側における過去および現在の認識度・理解度・普及度等の把握が重要であり、それは妥当性・実用性の検討においても重要な意味をもつ。そのため中間利用者 (ミドル・ユーザー) である医療・福祉専門職、および最終利用者 (エンド・ユーザー) である障害当事者・関係者についての意識調査を行うことも目的の一部とした。

B. 研究方法

【全体的な研究経過】

第 1 回班会議 (平成 12 年 5 月 22 日) において本年度の研究計画を決定し、第 2 回班会議 (平成 12 年 8 月 18 日) において中間報告、中間総括を行い、第 3 回班会議 (平成 12 年 11 月 29 日) において研究の最終報告、最終総括を行った。なお第 3 回班会議では平成 12 年 11 月 15 日-17 日にマドリッドで行われた WHO 国際障害年次改定会議についての報告をも行い、それを含めて次年度の研究方針についても協議した。全 3 回の班会議の資料を資料 1-1~1-3 として後に掲載した。以下項目別に述べる。

1. 翻訳の確定

1-1. 逆翻訳による訳語の検討

【目的】語学専門家の協力をえて翻訳の質を高めることを目的とした。

【方法】WHO フィールドトライアル研究指針に従い、研究 1 (翻訳および言語的分析) の一部として逆翻訳による日本語訳語の適切さに関する研究を行った。具体的には WHO が定めた 56 語 (表 1 の No.1~No.56) に日本語への翻訳過程で疑義の生じた 43 語 (表 1 の No.

逆翻訳による言語評価

表1

No.	原語	訳語	逆翻訳	問題点とコメント
1	Functioning	生活機能	living function	全く新しい概念であるため適訳なし。よりよい訳語を工夫すべき。
2	Societal	社会的	social	あえてsocietalという必要はなくsocialに統一すべき。
3	Disability	障害	impediment	日本語の「障害」は「障害者」の場合に限らないより広い意味をもつ。
4	Disease	疾病	disease	同一。
5	Disorder	変調	abnormality	変調という訳はdisorderよりも狭義。
6	Health condition	健康状態	state of health	ほぼ同一とみてよい。
7	Impairment	機能障害	functional disorder	機能障害という訳はimpairmentよりも広義。
8	Activity	活動	activity	同一。
9	Participation	参加	participation	同一。
10	Environmental factors	環境因子	environmental factor	同一。
11	Structure	構造	structure	同一。
12	Sharing attention	注意の共有	sharing attention	同一。
13	Energy and drive functions	エネルギーと欲動の機能	function of energy and desire	driveにあたる適切な日本語がない。原語が不適切。
14	Continuity of consciousness	意識の連続性	continuity of consciousness	同一。
15	Orientation to time	時間に関する見当識	apprehension concerning time	見当識という医学用語がわかりにくい。工夫が必要。

No.	原語	訳語	逆翻訳	問題点とコメント
16	Openness to experience	経験への開放性	liberation of experience	同等の概念・用語がないためわかりにくいのが、やむを得ない。
17	Regulation of emotion	情緒の制御	control of emotion	制御と訳すとregulationより広義である。
18	Time management	時間管理	management of time	同一とみてよい。
19	Calculation functions	計算機能	function of calculation	同一とみてよい。
20	Speech discrimination	話し言葉の弁別	distinction/recognition of speech	「話し言葉であることの認識」としたほうがよいかもしれない。
21	Production of voice	音声の産生	utterance	和訳は原語よりやや広義である。
22	Fatigability	易疲労性	liability/susceptibility to fatigue	医学用語なのでであろうが原語が難し過ぎる。
23	Manipulation of food in the mouth	口中での食物塊の操作	manipulation of solid food in mouth	同一とみてよい。
24	Functions of sexual arousal phase	性的興奮期の機能	function in sexually stimulated stage	和訳は原語より広義であり、工夫が必要。
25	Supportive functions of arm or leg	腕あるいは脚の支持機能	supporting function of limbs	同一とみてよい。
26	Watching activity	注視活動	observation	同義語である。
27	Recalling	思い出す	remember	同義語である。
28	Initiating acquisition of a skill	技能の習得の開始	starting of learning skill	同義語とみてよい。
29	Problem solving activities	問題解決活動	(activity of) solving problem	同一とみてよい。
30	Taking decision	決定を下す	making decision	同一とみてよい。
31	Understanding body gestures	体を用いたジェスチャーの理解	apprehension of bodily gesture	同義語とみてよい。
32	Shaping and directing conversation	会話を形づくり、方向づける	constitution/production and orientation of conversation	同義語とみてよい。

No.	原語	訳語	逆翻訳	問題点とコメント
33	Driving human-powered transportation	人力の交通機関の運転	driving human-powered vehicles	同一。
34	Dressing in accord with social setting	社会的状況に調和した更衣	dressing properly for social situation	同義語。
35	Maintaining assistive devices	補助器具の維持	maintenance of supporting implement	和訳は原語より狭義なのでは？
36	Showing tolerance in relationships	人間関係における寛容さの表明	expressing generosity in human relationship	toleranceを寛容とするのは専門的すぎないか？
37	interacting according to social rules and conventions	社会的ルールと慣習に従った相互関係	mutual relationship following social rules and conventions	和訳は原語より広義だが、やむを得ない。
38	Activities of terminating short term interaction	短期の相互関係の終結	terminating short-term mutual relationship	同義語。
39	Performing a task independently	単独での一つの課題の遂行	(independent) accomplishment of the task assigned (by oneself)	同義語。
40	Activities related to work acquisition, retention and termination	仕事の獲得、維持、終了	obtaining, continuing and terminating job	同義語。
41	Carrying out complex financial transactions	複雑な財政取引の実行	having complicated financial dealings	同義語。
42	Activities related to travelling for pleasure	楽しみとしての旅行	travelling for pleasure	ほぼ同一。
43	Personal maintenance	個人生活維持	maintenance of individual life	同義語。
44	Participation in health by informal means	非公式な保健活動への参加	participation in unofficial health-activity	ほぼ同義。
45	Exchange of information by public symbols	公的シンボルによる情報交換への参加	exchanging information using official symbols	和訳は原語より広義であるが、やむを得ない。
46	Spousal relationship	婚姻関係への参加	participation in matrimony	同義とみてよい。
47	Participation in health maintenance for others	他者の健康維持への参加	participation in maintaining others' health	ほぼ同義。
48	Participation in command over personal economic resources	個人的経済資源の自由な利用への参加	participation in free utilization of private economic resources	ほぼ同義。
49	Participation in socializing	社交への参加	participation in social intercourse	ほぼ同義。

No.	原語	訳語	逆翻訳	問題点とコメント
50	Participation in citizenship	市民権への参加	participation in citizenship	同一。
51	Societal attitude	社会的態度	social attitude	socialに統一すべき。
52	Open space planning services	オープンスペース利用計画サービス	planning of open-space utilization service	同一とみてよい。
53	Professional educational programs	専門教育プログラム	special education programme	和訳は原語より広義。専門職教育とすべきか。
54	Occupational health and safety services	産業保健と安全のサービス	service on industrial health and safety	原語が専門的でわかりにくい。
55	Labor relations services	労働関係のサービス	service concerning labour	和訳は原語より広義である。「労資関係」の方がよいのでは？
56	Associations and organizational systems and policies	団体と組織の制度と政策	system and policy of groups and organizations	ほぼ同義とみてよい。
57	access	利用	utilization	「アクセス」をそのまま使うか、「利用しやすさ」とするかすべき。
58	activity limitation	活動制限	restriction of activity	ほぼ同義。
59	body functions	心身機能	function of mind and body	ほぼ同義とみてよい。
60	control	統制	regulation	ほぼ同義。
61	participation restriction	参加制約	restriction of participation	同一とみてよい。
62	regulation	制御	control	ほぼ同義。
63	specific	個別的な	individual	和訳は原語より広義。再検討すべき。
64	contextual factors	背景因子	background factor	この場合原語が不適切である。
65	domain, universe	領域	domain/territory	ほぼ同義。65と66の使い分けは難しい。
66	domain, universe	範囲	sphere/extent/range	同上。

No.	原語	訳語	逆翻訳	問題点とコメント
67	neutral	中立的な	neutral	同一。
68	function, functioning	機能	function	同一。
69	incentive	報酬	reward	和訳は原語より広義になっている。
70	emotion	情緒	emotion	同一。
71	affect	感情	feelings	同義語。
72	reception	受容	adoption/reception	和訳は原語より広義になっている。
73	stuttering	吃音	stammering	同義語。
74	actions	行為	act/behavior	ほぼ同義。
75	sustaining	持続的な	continuous	同義語。
76	listening	注意して聞く	listen carefully	ほぼ同義。
77	rehearsing	予行演習	rehearsal	ほぼ同一。
78	elementary actions	要素的行為	elementary behavior	ほぼ同義。
79	decision making	意思決定	decision making	ほぼ同一。
80	formal sign language	手話	sign language	ほぼ同一。
81	implied meaning	言外の意味	implication	ほぼ同義。
82	inferred	推測された	supposed	和訳は原語より広義。推論とすべきか。
83	body position	姿勢	attitude/posture	和訳は原語より広義。

No.	原語	訳語	逆翻訳	問題点とコメント
84	moving	移動する	movement	同義語。
85	transferring	乗り移り	transfer	ほぼ同一。
86	caring	手入れ	care	ほぼ同一。
87	dwelling	住宅	housing/house/residence	和訳は原語より狭義。
88	living area	居住地区	residential section	訳語再検討の要あり。
89	living place	住居	residence	訳語再検討の要あり。
90	health	保健	health	同一。
91	public transportation	公共交通機関	public transportation	同一。
92	commercial	民営の	private	和訳は原語より広義。
93	closed captioning	文字放送	teletext (broadcast)	訳語に工夫必要。
94	task	課題	problem/subject	和訳は原語より広義。
95	technology	機器	instrument/apparatus/appliance	和訳は原語より狭義。
96	products	生産物	products	同一。
97	support	支持	support	同一。
98	immediate family	直接家族	?	日本語にはこのような概念がなかった。定義すればよいであろう。
99	system	制度	system	同一。

57～No.99)を加え、99語を対象として次の手順で行った。

- 1) 99の単語又は複合語について、昨年度の研究で暫定的に確定された日本語訳のみを英語学の研究者(大学教授)に示し、そこから英語への逆翻訳を依頼した。
- 2) 原語・日本語訳・逆翻訳の一覧表を製作した。
- 3) その表について逆翻訳担当の英語学者と翻訳責任者のうちの2人(上田、佐藤)の3名が議論し、喰い違いがある場合にはその原因、解釈、必要な対応について結論を下した。
- 4) 以上の結論を翻訳の最終確定に生かした。

1-2. WHO 国際障害分類の利用者に対する意見聴取

【目的】WHO 国際障害分類は国際疾患分類(ICD)等とは異なり、医学専門家だけが使用するものではなく、医療、リハビリテーション、福祉その他の関連分野の実務家(一種の中間利用者・ミドル・ユーザー)、さらに障害者自身とその家族・関係者(いわば最終利用者・エンド・ユーザー)もこれを使用することが期待される。そのためには翻訳においてもこれらの人々の意見を最大限重視することが望ましい。

【方法】専門職団体36団体、障害当事者団体35団体に協力および協力者の推薦を依頼し、協力者にWHO 国際障害分類改定案ベータ2案の日本語訳(案)を送付して、意見を求めた。

更に本班の主任および分担研究者計6名に、視覚障害、聴覚障害、内部障害、職業リハビリテーションの専門家を加えた研究者10名、専門職代表10名(医師会、歯科医師会、看護協会、理学療法士協会、作業療法士協会、言

語聴覚士協会、義肢協会、社会福祉士会、介護福祉士会、障害者雇用促進協会よりの推薦)、障害当事者等代表10名(知的障害福祉連盟、障害者協議会、筋ジストロフィー協会、身体障害者団体連合会、盲人会連合会、ろうあ連盟、精神障害者家族会連合会、DPI日本会議、共同作業所全国連絡会、手をつなぐ育成会よりの推薦)の計30名(WHO 国際障害分類第2版フィールドトライアル委員会)から昨年度の班研究による日本語訳について再度最終的な意見を聴取した。

以上2種の意見聴取を考慮し、最終的な日本語訳を決定した。

2. 信頼性の検討

【目的】本分類を用いて同一対象について異なる評価者が独立に評価を行った場合に、その結果がどれだけ一致するか(検者間信頼性、inter-rater reliability)を検討する。

【方法】ICIDH-2の各次元と環境因子の第2レベル、すなわち章(Chapter)レベルで参加者がコードの選択(コーディング)をしているか、否かについての一致性を検討した。3人以上の参加者が同一の対象に対して評価を行った場合の結果の一致性をみる指標として、 κ (Fleiss, 1981)値を算出した。

κ が、0.8以上をexcellent(E)、0.6以上0.8未満をgood(G)、0.4以上0.6未満をfair(F)、0.4未満をpoor(P)と判定した。

2-1. 標準ケースサマリーによる評価の信頼性

WHOが全世界の協力センター等を通じて収集し整理した25例の比較的短い標準ケースサマリーを用いて行った。参加者は本研究の分担研究者およびその指導下にある研究協力者、およびWHO 国際障害分類第2版フィールドトライアル委員会を通じて研究に協力した者であった。

なお、一部の評価者について標準ケースサマリー評価への習得前後の比較を行った。

2-2. 現実のケースによる評価の信頼性

本研究の分担研究者およびその指導下にある研究協力者によって実際の障害者について複数の評価者が独立にコーディングを実施し、その結果について検者間信頼性の検討を行った。

2-3. 記録による評価の信頼性

複数の病院の診療記録（カルテ）について6名の評価者が独立にコーディングを行い、それについて検者間信頼性をみた。更に内科医の書いたカルテ、通常のリハビリテーション・プログラムを行っている病院のカルテ、目標指向的リハビリテーション・プログラム（理学療法士・作業療法士・看護婦の「協業」による病棟ADL訓練、実用歩行の重視、車椅子依存からの脱却等を特徴とするプログラムで、すでに通常のリハビリテーション・プログラムに比べてはるかに良い効果が上がることが証明されている）を行っている病院のカルテ、という、カルテ記載者の違いによる差についても検討した。

3. 妥当性の検討

【目的】本分類のコーディングによる評価と、すでに確立されている評価法によるものとの同一の症例について行い、その間の相関をみることに本分類の外的妥当性を検討することを目的とした。

【方法】脳卒中患者204例について、すでに信頼性と妥当性が検討済みである「包括的QOL評価法」（上田、大川）と本分類によるコーディングとの順位相関をみた。

4. 臨床的な介入前後の変化の検討

【目的】本分類による評価が、医療・リハビ

リテーション・福祉的対応などの臨床的介入の結果をどれだけ鋭敏に反映するかをみることを目的とした。

【方法】脳卒中でリハビリテーション専門医、理学療法士、作業療法士の常勤する病院で通常のリハビリテーション・プログラムを受けた後に「プラトー」（これ以上の障害の改善はない）と宣告されたケースに対し、前述の目標指向的リハビリテーション・プログラムを施行した例について、①通常のリハビリテーション・プログラムの実施（介入）前、②同実施（介入）後（プラトー宣告時）、③目標指向的リハビリテーション・プログラム実施（再介入）後の3つの時点における障害像の変化をみた。

5. WHO国際障害分類に対する認識度調査

【目的】中間利用者である医療・福祉専門職およびエンド・ユーザーである障害当事者・関係者155名に調査用紙（表15）による郵送法で調査した。

【倫理面への配慮】調査研究の目的について、当初によく説明し、同意を得た後に調査に協力していただいた。調査の過程で入手した情報の管理には十分に配慮している。

C. 研究結果

1. 翻訳の確定

1-1. 逆翻訳の結果（表1）

表1に逆翻訳そのものと、それについての検討結果を「問題点とコメント」として掲げた。

全99項目のうち、原語と逆翻訳が全く同一であったものは16項目（16.2%）、語順の違いはあるが同一とみなしうるもの15項目（15.2%）、同義語またはほぼ同義語と考えられるもの31項目（31.3%）であり、合計62項目（62.6%）が同一または同義語と考えて

よいものであった。残り 37 項目 (37.4%) の中には、日本語訳が原語より広義と考えられるもの 16 項目、逆に狭義と考えられるもの 4 項目があったが、その多くは他に適切な訳語がないためやむを得ないものと考えられた。その他少数であったが、原語 (英語) そのものの使い方に無理があると考えられたもの、原語と日本語訳の両者あるいはそのいずれかが医学的な専門用語に過ぎるため一般人には理解が困難であると考えられたものが存在した。

結論としては、語族、文化、習慣を異にする英語と日本語との間の翻訳であることを考慮すると、99 項目中約 80 項目 (81%) が一致、同義、あるいは近似的なものとして許容しうるものとして認められたことは決して悪い成績ではないと考えられた。なお一部の例についてはこの逆翻訳の結果にもとづいて訳語を再検討したり、WHO に用語の変更を勧告した。

1-2. 利用者に対する意見聴取と日本語訳の最終決定

第 1 段階の意見聴取では専門職については 19 団体 39 名、障害当事者については 11 団体 17 名から意見が寄せられた。また第 2 段階の 30 人からなるフィールドトライアル委員会からの意見聴取でも多くの貴重な意見が寄せられたが、それを取捨選択し、最終的に昨年度の翻訳 (暫定案) に対し、別記のような部分的修正を加えることにした (表 2)。

以上によってベータ 2 案の日本語訳の骨格は確定した。その後主任研究者と一部の分担研究者によって最終的にすべてのケアレス・ミステークを訂正し、かつ改めて表現および用字法の統一、レイアウトの工夫などを行って、正確であると同時に読みやすく使いやすいものにする努力を払った。それにより完全に決定訳としたものが資料 2 ; ICIDH-2 :

WHO 国際障害分類第 2 版「生活機能と障害の国際分類」ベータ 2 案完全版日本語訳である。

2. 信頼性の検討結果

2-1. 標準ケースサマリーによる評価について

表 3 に WHO が製作した標準ケースサマリー (全 25 例) を示した。これを用いて章レベル (第 1 次レベル) での一致率をみた。全評価数は 266 評価であったが、25 例の標準ケースサマリーをすべて評価した参加者は 8 名であった。また標準ケースサマリー毎の評価への参加者は下記の如くであった。

CS001	-	13 名	CS014	-	9 名
CS002	-	14 名	CS015	-	10 名
CS003	-	12 名	CS016	-	9 名
CS004	-	12 名	CS017	-	9 名
CS005	-	13 名	CS018	-	8 名
CS006	-	9 名	CS019	-	10 名
CS007	-	12 名	CS020	-	10 名
CS008	-	14 名	CS021	-	9 名
CS009	-	9 名	CS022	-	9 名
CS010	-	12 名	CS023	-	13 名
CS011	-	13 名	CS024	-	8 名
CS012	-	8 名	CS025	-	10 名
CS013	-	11 名	計		266 評価

章の数は心身機能 8、身体構造 8、活動 8、参加 9、環境因子 6 である。項目数が多く煩雑であるため、先に示した E (excellent)、G (good)、F (fair)、P (poor) で示すと表 4 の通りである。ここで例えば心身機能 G~E と示したのは、心身機能の 8 章についての 8 個の κ 値は G または E に属しているが、そのうち大文字になっている E に属するものが多いという意味である。同様に F~G~E とは 8 個の κ 値は F から E までの広い範囲に分布しているが、その中では G に属するものが多いという意味である。

表 2

1) 心身機能、身体構造

- (1) b110 trans state: 「トランス」を「トランス (催眠状態)」とする。
- (2) b165 tangentiality: 「連合弛緩 (思考逸脱)」を「思考逸脱 (連合弛緩)」とする。
- (3) b230 deafness: 「ろう (難聴)」を「ろう」とする。
(なお b230 には hearing loss: 「難聴」がある)
- (4) b265 anaesthesia: 「触覚脱失」を「皮膚感覚脱失」
paraesthesia: 「触覚異常」を「皮膚感覚異常」
hypaesthesia: 「触覚過敏」を「皮膚感覚過敏」とする。

2) 活動

- (1) a1101 listening activity: 「注意して聞く活動」を「注意して聞く (傾聴) 活動」とする。
- (2) a215, a235 formal sign language: 単に「手話」としていたが仲間内の手話と区別する意味で「公式手話」とする。
- (3) a2200 body gesture: 「体を用いたジェスチャー」を「全身を用いたジェスチャー」とする。
- (4) a2252 alternative written form: 「代替書字法」を「代替の筆記形式」とする。
- (5) a3704 catching: 「つかむ」を「つかまえる」とする。
- (6) a450 transportation: 一般には「交通機関」だが、ここでは人力を用いたり個人で運転したりするものであるため「交通手段」とする。
(p2400 も同様)
- (7) a610 acquiring a place to live: 「住居を獲得する」を「住居を取得する」とする。
(a620 の生活必需品についても同様)
- (8) a6201 shopping: 「ショッピング」を「買い物」とする。
- (9) a6201 getting: 「購入」を「取得」とする。
- (10) a860 spiritual: 「スピリチュアル (霊的) な」を「スピリチュアルな」にする。
(p930 も同様)

3) 参加

- (1) p140 ill-health: 「不健康」を「健康低下」とする。

4) 環境因子

- (1) 5章の説明 voluntary: 「ボランティア的な」を「任意 (ボランティア的) な」とする。
- (2) e535 telephone relay service: 「電話接続サービス」を「電話転送サービス」とする。
- (3) e630 computer-based system: system をすべて「制度」とすることとしていたが、この場合のように一般に「システム」が用いられている場合はそれに従う。

表 3

ICIDH-2 ベータ 2 案 フィールドトライアル用 標準ケースサマリー

ケース 1

パトリックはパリの郊外で妻と共に暮らす 64 才の男性である。彼らは大きな庭のある大きな家に住んでいる。パトリックと妻には 2 人の子供と 5 人の孫がいる。彼らはほんの数ブロック先に住んでおり、週に数回彼らを訪ねてくる。パトリックは大企業の会計部門で 27 年間働いてきた。パトリックは同僚にとっても人気があり、彼らはとても長い時間を共に過ごしてきた。彼らは通常毎週金曜日に夕食を共にし、その後カードをしてきた。

ここ 2 年間、パトリックは仕事上の小さな事柄を忘れてしまうようになってきた。以前はこのようなことは全くなく、彼はこのことを気にかけているが、どうすることもできない。25 年間繰り返しやってきたことを思い出せないことがある。彼はまた、仕事の会議を忘れてしまったり、以前話したことがある人を覚えていなかったりする事がある。彼の上司はこの問題について見逃してきたが、今や予定よりも早くパトリックに退職して欲しいと思っているとパトリックは感じている。パトリックはこのことに同意した。

数日前、パトリックは孫のお守りをするために職場から彼の子の家に直行することになっていたが、道がわからなくなってしまった。彼はこの道を何年も通ってきたが、一度も迷ったことはなかった。それ以来彼は孫のお守りをするができなくなってしまった。

友人達との最近の夕食の時、パトリックはカードのやり方を思い出すことができず、妻が彼を連れ帰らねばならなかった。パトリックはまた、入浴と朝の更衣も困難で、妻が彼を助けなければならない。パトリックはもはや家の中のことをすることができず、現在は妻が全ての経済的な事柄などを処理している。ガーデニングに対する興味はまだ保たれているが、以前ほど上手にやることはできない。

ケース2

エリザベスは米国カリフォルニア州で家族と暮らす15才の少女である。彼女はフルタイムで働いている両親と、7才と10才の妹たち、そしてルーファスという名のペットの犬と共に暮らしている。エリザベスは、家からバスで30分ほどのところにあるとても大きな高校に通っている。

エリザベスは歌うことと踊ることが好きで、これらの技術を高めるためのクラスに通っている。彼女はまた、読書も好きである。

エリザベスには額の半分を占める濃いあざが生まれたときからある。この他には身体的問題や病気はない。エリザベスの両親は、このあざはどうすることもできず、一生消えないだろうと聞かされた。彼女の両親は普通に彼女を育てようとし、彼女の自信を強くするよう常に努力し、彼女が他の子と同じように良い子であるということを言い聞かせてきた。エリザベスはあざについてずっと気付いてはいたが、ティーンエイジャーになるまで全く問題にならなかった。

エリザベスは12才か13才になった頃から全てが変わったと感じている。彼女の数少ない友人は、男の子に興味を持ち始め、エリザベスは彼女らと一緒にいることを許されなくなった。彼女らは、エリザベスが男の子を怖がらせてしまい、仲良くなるチャンスをだめにすると言った。友人らは彼女抜きで出かけるようになり、いろいろな出来事が起きたときに一緒にいないため、学校での会話や笑いから締め出されるようになった。彼女の友人らはまた、化粧にも大いに興味を示すようになり、鏡の前で何時間も過ごすようになった。エリザベスはとても孤独に感じるようになっていく。

エリザベスはまだダンスと歌のレッスンには通っている。彼女は聖歌隊でも歌っており、その聖歌隊は時に公共の場で歌うこともある。彼女はこれをとても楽しく思ってきたが、最近彼女は聖歌隊のうちの何人かが「彼女はあまりに醜くて、みんな歌を聴かずに彼女のことを見てしまうわ。」と話しているのをたまたま聞いてしまった。エリザベスはとても悲しく思い、以前ほど参加しなくなった。

彼女の両親は、エリザベスが以前よりも家で過ごす時間が長くなり、悲しそうな様子であることに気付いたため、彼女と話そうとした。しかしエリザベスは、誰も本当にわかってくれる人はおらず、このことについて話をしたくないと思っている。彼女は犬に話しかけており、この犬が彼女の支えとなっている。エリザベスの成績は良かったが、教員達は彼女が頑張らなくなっており、成績も落ちてきているということに気付いている。

ケース 3

トーマス・スミスはロンドンに住む43才の男性である。彼はロンドンの中心部から遠いアパートで、妻と15才と18才の2人の子供と共に暮らしている。トーマスは大工で、比較的小さな建設会社に雇われている。彼の妻、イヴは何年もの間主婦だったが、今ではロンドンのある病院の厨房で働いている。トーマスと家族は彼らの友人達と会ったり、トーマスが自分で建てた夏のコテージに行くことを楽しく思っている。彼の仕事は彼の最大の趣味でもあり、彼は余暇にも他人の家を建てており、これにより少しの副収入がある。毎年一家はコテージに、しばしば友人達とも一緒に行く。

トーマスはいつもアルコールを飲んできた。彼は10代の頃から飲み始めてパブに行くようになり、しばらくしてもっと刺激を得るためにはもっと飲まなければならないということに気付いた。彼は誰にも気付かれずに長期に渡って酒量を増やしていき、仕事もうまくいっていた。しかし近年、彼は酒量をコントロールできず、毎日たくさん飲まねばならなくなっている。トーマスは前日何をしていたが覚えておらず、飲まないとても震えてしまう。この、震える手のせいで彼は仕事をきちんとやることができず、作業に集中することができない。彼は小さな企業に雇われているため、ミスをする従業員を養っていくことはできないので退職してくれないかと上司に言われた。これにより彼の経済状態は大きな打撃を受けた。

イヴと子供達は彼に飲酒を止めさせようと努力したが、成功しなかった。これは家族の生活にも影響を及ぼし、トーマスの飲酒のために友人達と出かけることもできなくなった。トーマスとイヴはもう長い間性的関係を持っていない。トーマスが解雇されて以降、イヴはもうこんな状態は耐えられないと思い、離婚を訴えている。トーマスは彼の家族や友人達から締め出されている。

ある日トーマスは酔っぱらって車に乗り、コテージに向けて車を走らせた。彼の運転はあまりにひどいため彼はパトカーに止められ、警察は彼の免許証を取り上げてしまった。トーマスは長期間運転を禁じられた。これにより彼はさらに打撃を受け、彼の酒量は増え、今や身の回りのことをするにも困難がある。彼はきちんと食べておらず、個人衛生にも気を配らない。彼はお金ができると飲み続けてしまう。

ケース4

ジェイコブはオーストラリアのシドニーで両親と兄たちと共に暮らす8才の男児である。彼の父親は大学の教師として働いており、母親は主婦である。彼は家族と共に時間を過ごすことがとても楽しみであり、特に尊敬する兄たちと過ごすことが楽しみである。彼はまた、ゲームをしたりスポーツをしたり新しい自転車に乗ることも好きである。

ジェイコブは2年間学校に通っているが、これは大変なことであった。彼にとって作業に集中することはとても困難であり、短い時間でない限りは、何かに集中するのは無理なように見受けられた。彼はとても活動的で、とても容易に気が散ってしまう。ジェイコブはまた、読み方、書き方、計算の仕方を学ぶことがなかなかできない。これらのことによりジェイコブは扱いにくい生徒と見なされ、教員達の間でも、ジェイコブは他の子達のように行動しようとしないう子と言う見方をされるようになった。

教員達はジェイコブの両親と連絡を取り、これは重大な問題であり、学校でもっと特殊な援助が必要であると告げた。教員達には特殊なニーズを持つ子供達を援助するための余分な時間はあまりないので、それらの子供達の方が学校の基準に合わせなければならない。ジェイコブの両親はジェイコブができるだけ穏やかで平穩にいられるよう努力し、とても協力的である。ジェイコブの兄たちもよくジェイコブの面倒を見ていて、共に仲良く過ごしている。

ジェイコブはゲームをし、スポーツをすることが好きだが、彼は自分の順番を待たず、ゲームのルールを守らないため上手に遊ぶことができない。このため、彼は同年代の子供達と良い関係を築くことができない。しかしジェイコブと家族が住む家の近所の人々はこれらの問題について知っており、とても協力的である。彼らはジェイコブのことを気にかけて、彼も参加できるようにゲームを簡単にしてくれる。

ジェイコブは彼の身の回りのことに関する発達が遅れている。彼は更衣と靴を履くことに援助が必要である。彼は食べることと飲むことは自分でできるが、テーブルの上にたくさんこぼしてしまい、頻繁に食事の途中で遊びに行ってしまう。

ケース5

クリスティンは40代半ばの女性で、アイルランドの小さな村に住んでいる。彼女は独身で、子どもいない。彼女は庭のある家に一人で住んでいる。クリスティンは庭でご近所の方と言葉を交わしたりすることが好きである。彼女の両親はロンドンに住んでいて、彼女が両親と会う機会はそれほどない。クリスティンは看護婦で、何年も働いてきた。

クリスティンは数年前に大きな事故に遭い、首に怪我をした。彼女の両下肢は麻痺状態にあり、下肢を使うことができない。動き回るためには車椅子を使用しなければならない。この事故による問題はこれ以外にはない。

クリスティンは自分でベッドから車椅子へと移乗する。彼女は着衣もできるし、自分の食事も自分で作る。家の掃除と買い物は、社会福祉事業によって援助してもらっている。社会福祉事業からの援助者は週一回来るのみである。

一番大きな問題となるのは、クリスティンが外出したいと思うときである。彼女は自分では運転できないが、改造車があれば自分でできるだろう。しかし、法律はこのような運転を認めておらず、そのためクリスティンはその他の移動手段を用いなければならない。彼女は公共交通機関を使うことができず、そのため社会福祉事業の有している移動手段に頼らざるを得ない。クリスティンは田舎に住んでいるため、これはあまり有効な手段とはなっていない。どこかへ行くにも長時間かかり、そしてとてもお金がかかる。

クリスティンは週に何回か教会へ行くことが好きだったが、今では移動の問題があるため、教会に行くのは大変だと思っている。教会では彼女の数少ない友人に会う。彼女は車椅子に乗っているため、新しい友人を作るのは難しい。動き回ることが困難なため、彼女はあまり外出をしない。

この事故のおかげで、看護婦として以前働いていたようには働けなくなった。彼女は失業中で、車椅子を利用しているため仕事を見つけるのは大変困難である。彼女には経済的な問題があり、ここでもまた社会福祉事業の世話になっている。彼女はスポーツにも旅行にも参加することができない。

ケース6

29才の女性、サラは、バンコクに住んでおり、銀行員として働いている。彼女はとても働き、時には週に80時間働くこともある。とても緊張を強いられる仕事であるが、彼女はその仕事が好きで、彼女の友達もたくさんそこで働いている。彼女にはたくさんの友人がおり、彼女はとても社交的な生活をしている。彼女はコンサートに行ったり、展覧会やスポーツの試合を見に行くことがとても好きである。彼女はとても活動的で、リラックスする時間はあまりない。彼女は一人暮らしをしているが、恋人とはできるだけ会っている。彼女の母親と妹もバンコクに住んでいるが、彼女の父親は6ヶ月前に亡くなった。

父親の死以来、サラは意気消沈している。仕事にはとても緊張を強いられるのだが、彼女は何に対しても集中することができない。彼女はまた、いつでも疲れているのだが、夜眠れない。趣味に対する興味も全く失ってしまい、人と話すことさえできないほど疲れている。彼女の気分はとても低調である。サラは仕事において何もやり遂げることができず、彼女の上司はこれをとても大きな問題と感じている。彼女が仕事を適切にできなければ、彼女は解雇されてしまうだろう。サラの同僚も彼女の様子が変わったと感じ、彼女を避け始めた。サラは今や、何人かの友人の仲間から外されている。

サラは自分の身の回りの世話も難しくなっている。食欲もなく、食べることにに対する興味もない。彼女の体重は減っている。家事は一切できない。彼女は自分自身に全く価値がないと感じ、希望もないと感じている。彼女の自尊心はとても低い。サラの恋人と家族は彼女の世話をしており、彼女に援助が必要だと言うことを理解している。